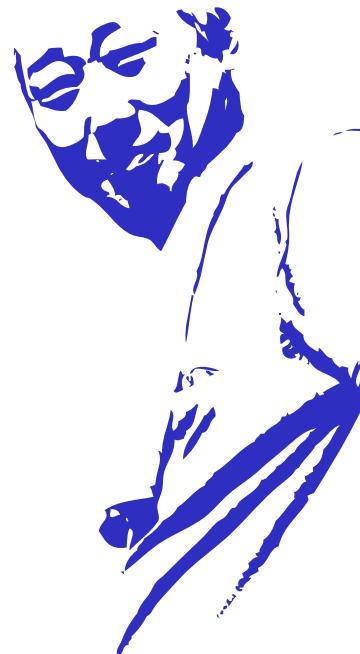


## 経歴

千葉大学大学院工学研究科(デザイン学専攻)修士課程修了、  
同大学院自然科学研究科環境科学専攻  
(デザイン科学) 博士課程修了。  
博士 (学術) (デザイン学 (Ph.D.))。

国立大学法人、信州大学繊維学部 21世紀 COE 研究員  
長野大学企業情報学部准教授を経て同大学教授  
公立大学法人 長野大学、理事・副学長、歴任  
中国、華僑大学美術学院、農業デザイン分野、客員教授  
湘南工科大学、特任教授  
湘南工科大学、地域連携センター長  
湘南工科大学、総合デザイン学科教授、現在に至る。

日本デザイン学会第 57 回春季研究発表大会 (全国大会)  
日本デザイン学会第 63 回春季研究発表大会 (全国大会)  
大会実行委員長 歴任  
上田市中心市街地活性化基本計画策定委員会 委員長 歴任  
日本デザイン学会、日本感性工学会、日本色彩学会、アジア文化デザイン学会などの各正会員  
一般社団法人 日本デザイン学会 代議員  
長野県デザイン振興協会 理事  
信州上田文化デザイン研究会 副理事長  
長野県信州ブランド研究会 委員  
長野県信州ブランドアワード 選考委員  
飯田市地域づくりアドバイザー  
栄村観光のあり方研究会 委員長  
信州上田地域健康パーク推進協議会 会長など  
地域から発信できるデザイン科学を追求している。



テーマ：「空家とまちのリノベーション」～空家は“まち”を変える力になれるか？～  
地域が活性化するために必要な資源とは

講 師： 湘南工科大学

教授 馬在勇 博士 (学術、デザイン学)

大学は今、地域の多様な課題に対して、地域と連携し、ソリューションを提供する場として求められている。

本学では、『社会に貢献する技術者の育成』を大学の方針として掲げ、社会貢献活動などを行っており、それに加えて、これらの活動は『点』から『面』へと絵描き、大学の「知」と地域の「力」を融合し、地域内外、地域間につなぎ、地方創生や持続可能な社会をつくることを目的として、昨年10月に湘南工科大学の地域連携センターが設立された。

さて、今日は「デザインの時代」といわれている。そもそもデザインは、意匠であり、意匠とは何かを考えてみると、「意」と「匠」という二つの漢字を用いた、「意匠」は、心のなかに浮かぶ願いを音に現わして仲間に伝え、斧のような道具を用いて函を制作することによって、その心のなかの想いや願いを充たしていく総合的な科学であると考えられる。総じて、私たちは、デザイン、意匠という、心の音を、斧でもって、具体的な箱を作り上げていくことである。

そこで、地域連携とデザインの役割について、皆様と一緒に考え、将来の地域のデザインを意識して思考する時間にしたい。

## 地域デザインへのみける3つの哲学

### ① 「地域とは歴史であり個性である」。

いずれの地域も、先人たちが築きあげ継承してきた固有の歴史・生活文化をもっている。私たち一人ひとりに「人格」が認められ侵害されぬよう保護されているように、いずれの地域も、何人によっても、どんな手段によっても傷つけ揶揄することの許されない、いわば「地域格」とも呼べるものを作っている。それは、それぞれの地域に固有な「地域の個性」である。

### ② 「出発点は地域の華の再確認にある」。

何もないところなどないはずなのに、地域の人びとは「ここは何もない」という。この観念を打破するため、地域の人びとが共同し、五感を総動員して、「地域の生活文化サーベイ」を行うことが肝要である。

### ③ 「地域デザインは内向きな普段着の発想で」。

地域デザインは外の人のためにあるのではないのに、地域の人びとは「何をしたら来訪者に喜んでもらえるか」と考える。地域づくりは、外の人の趣向や志向にあわせるかたちで、地域が自らの様態を変貌させていくことではない。

「デザイン」「地域創生」は、まさに、「自らの生活を、自らの手で、いかに豊かなものにしていくことができるか」を地域の人びとが思考し、一人ひとりがその実現に向けて不断の実践を行うことから生まれる。おそらく、上の三つの理念は普遍であろう。そして、「デザインとは人心の華」である。

総じて、私たちは、デザイン、意匠という、心の音を、斧でもって、具体的な箱を作り上げていくことである。

いずれにせよ、それぞれの地域に内在している地域資源の再発見からすべてスタートである、日ごろの生活のなかでともすると忘がちになっていた地域そのものが歴史的に保有してきた諸資源を洗い出し、再評価し、その資源をいかにして磨き上げるかを真剣に考え、実践して行くことである。「できることから始める」の大原則にたって実践することなくしては始まりません。また、「いかに稼ぐか」「いかに儲けるか」が先立った「地域デザイン」は、いつまでたっても、不可能である。

したがって、「いま、何を大切にする必要があるのか」「次の世代に何をきちんと伝えていくべきか」「この地球のうえの一生物として、われわれ人間は、それぞれの地域の風土と歴史に根ざし、どのように生きていくべきか」などを真剣に考えることのなかから生誕した「地域デザイン」には、確実に光明がみえてくるでしょう。そして、このような問題を真剣に考えることを地域の人びとの間で共有することができた地域においては、確実に、地域を挙げての「地域デザイン」が展開されていくものである。